京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可からず

●農民救濟の三策 (二)

竹越與三郎

民政の中に於て最も重要なるは農村の關係である、人或る『農は國家の大本』たるの時代は過ぎ去て、今や已に工業立國の時期であると論ずるが、寧ろ農工立國と言ふた方が妥當である、農八百萬人、後の四千四百萬人は半農半商半工若しくは純然たる商工で組織して居るのであるから、農村の衰頽と云ふ事が重大なる問題であることは更めて言ふを要せない、然るに世の中に二宮尊徳宗など云ふものが、此の疲憊した農民に勤儉貯蓄しろと勸めるが、貯蓄と云ふことは有餘つた金を溜めることで、無い者には出來ない、勤儉貯蓄で救濟が出來ると思ふのは大謬であると、今日二宮尊徳が生れて大聲叱呼しても此の大勢を如何ともすることは出來ない、斯の如きは德川時代に於ける儒者の閑論である。

然らば此救濟法は如何したら宜いか從來我國農村には土地の分割が順序よく出來て居たが、高利貸が僅か百圓位の金を貸すに利息は普通二割から五割若しくは無利子(即ち十割)であると云ふ様の暴狀から、勢ひ農兼併が行はれ、今や土地の分割が破壞攪亂せられつゝある。日本全國の農民が十億の借金をして三割の利息を取られとしたならば、年々三億圓を拂はなければならぬ、若し之を怠れば土地を取られて了ふ。是に於て天下、上には大農あり下には水吞百姓ありと云ふことになる、明治廿六年に日本全國で地租五圓を納める者が百十八萬七千百十四人あつたのに、十五年を經たる明治三十一年には二十萬千八百五十九人となつて居る、同じ廿六年に地租十圓を納めて居た者は六十三萬六千七百七十二人であつたが十五年を經た明治三十一年には十一萬八千百廿六人に減じて居る、此の趨勢より見れば三十一年以後は經濟上の變動激甚なる時であるから非常な勢を以て減て居るに違いない。若し過去を以て未來を推さば、恐らく今後三十年も經ば農村は全く大農と水吞百姓との二者となるであらう、此の二者のみでも農村が從來通り治つてゆくならば結構であるけれ共、これは農村滅亡の兆である、西洋諸國で苦心して居る事は、如何して農民に土地を所有せしむべきかの問題である『所有權の魔術は土を化して黄金と爲す』即ち自己の所有ならば深く耕耘し多く肥培するが、他人の土地ならば今年作つても來年は作らぬかも知れぬ從つて力の入れ方が異ふ、實に土地の分割が破壞されて了つては農村は成立たぬのである、日本では平均一人五段歩の土地を有て居る者は少ないが、丁抹は一人三十五噸、英吉利二十噸、獨逸十九噸、佛蘭西十五噸、白耳義五畳である、日本は中農が幾許あり、大農が幾許ありと云ふ統計さへ立たぬ、唯五段歩以上の田地を有する者が二百二十七萬人、五町歩以上が百二十七萬人、十町歩以上が二萬九千人と云ふことが判つて居るだけである。佛蘭西の如き明確に其の統計が出來て居る(日本は統計表が無くて政治をして居るのであるから、實に亂暴である)又ナポレオン法で遺産の處分法が巧妙に行はれて居る。

文苑

●指の數　松琴生

幾つねば初春や來ぬと幼な子の指にたづぬる指の數かな

○

濱添ひの柳の枯葉落ちつくしもしほの煙影あらはなり

○

埋火や蜜柑むきつゝへだてなきみとかたりて冬の夜更けぬ

○

朝寒の生息にくもる硝子戸にのゝ字書きたる幼子の友

○

詣で來て僧か案内の客殿に繪ぶすまを見る山茶花の寺

外事一束

▲露國　哥薩克兵波斯通過の商隊を保護し土守備隊露兵との衝突を豫期すと

▲佛國　代議院三十六對三百九十二の大多數を以て摩洛哥協約を是認せりと

▲英國　突如トリポリと埃及との中間ソルムを占同時に佛國ヂヤヂットを占

▲北米　デモクラット黨大統領改選運動準備として既に關稅調査に着手せり

▲獨逸　帝國議會議員總選擧一月中旬を以て行はるべきも其の運動は前回に比較し至極穏和に政府は財政改革の效果聲明外全然選擧運動に關係せずと

▲海牙　阿片會議國際協約草案の討議を始め協約は列國の批准をまつべしと

▲波斯　議會露國の最終要求に應する全權をば五名の代議士より成る委員に▲全權を委任すべしとの外務大臣の提案を通過したりとテヘラン電報報す

梁川庄八

第六十六回　小金井蘆洲演

若『エルト今日御輿を擔出さうとする、金を寄進して下すつた御連中が、御神酒所へ來て御輿を擔がせる事は出來ねへと云ふだ、夫んな事を云はれちやあ一年に一度の御祭禮が出來ねへと云ふと、イヤ金持の長左工門が金を出さねへ位なら、此方も出すのおやあなかつた、名主様の奥印付で大の男が十人も十五人も揃つて來て頼んだから、其顔發じて出しは出しだが、長左工門の身分と乃公達の身分とは一緒にはならねへ、彼の人が鐚一文も出さねへのに、手前達は乃公達から取て濟むか、強て御輿を擔ぎたければ割戻して置いて、夫から擔げ左もなければ、長左工門にも相當に出して貰つて札を掛けろと斯う云ふ理解を喰ひました。是もアヽ尤千萬な譯だが、俺等も高言を吐いたりしたものだで、今更長左工門から取る譯にも行かねへ、摺つた揉んだと押問答をして居る内に、御祭祀も終へて了ふもんだから、何とか早く趣旨を早く立ませうと云て居る所へ、恰度長左工門の忰が女子を連れて、來やがつた處から夫なやあ勇吉を瀧壺へ叩込んで、半死半生の目に會せてやるから、お前方も勸辨して下さへまし、然うでもするより外に、仕方がねへと云ふで、直様勇吉を胴上げをして、是から瀧壺へ叩込もうと云處でがす、今お前方に口を利かれると、神輿を擔ぎ出す事が出來ねへ、俗に人參呑んで首を縊るゝと云譯になるから、何うあつても勸辨は出來ましねへだ、手を引て下だせへ……サア若ひ衆……勇吉を擔ぎ出せ……』と云ふと勇吉は涙ながら　勇『私が其日居合せば、斯んな事はなるのでは御座いませんでした、此上は親父に成變つて相當の寄進を致しますから、何うぞ御勘辨下さるやう』にと頼む言葉の尾に付て才助も『村方の衆の仰しやる所も尤も至極、又此方の云處も尤も至極、畢竟寄進に付かぬ處から、起つた事だ……皆の衆の仰しやる通り、親の罪が子に報ふと云へば、子も又親の罪を償ふ事が出來る譯だから、何うが此邊の處で御勘辨を願ひたい』と頼りに宥めて居ります　若『然うでがす金さへ出して呉れゝば仔細はござへませぬ、人を殺せば下手人も出さなければならぬ、夫れよりはまあ金を取つて穏當に收まることなら、俺等も其方が宜いでがす、併し俺等が初め長左工門の處へ行て頼んだ時なら、一兩でも濟んだでがすが今と成ては寄合の時、飲食ひの金も掛つて居ることだから、一兩や二兩では闘酒になりませぬ、爰で濟さうと云ふなら、十兩もお出しなせへ、然うすれば幾干か一統の者にも割返しになる譯だから　勇『御尤もでござります併し只今は持合せがござりませんから晩方まで……　若『いや一刻も猶豫は出來ねへ　勇『でも只今は持て居りません先程貴方等に擔がれる時に財布や紙入を落して了ひましたから、御足勞でも宅まで今晩取りにお出下さるか、手前の方からお神酒所に持て上りますか、何方かに致しますから、どうか夫まで御猶豫を……　若『そんな一時逃れを云ても、夫れでは事が纏まらねへ、今持つて來ねへからと云て、俺等が取りに行けば、酢だの蒟蒻だのと云て、親仁の長左工門が一文だつて出しはすめへ、是れは、はあ手の着けやうがねへだ、そんな事と云ふて私等を胡魔化さうたつて、然う旨くは行かねへぞ　勇『それでも無い袖は振れませぬ　若『振れるも振れねへも、あるものか、比丘尼に揺とは云はねへ、愈々出すことが出來なければ、取らねへでも宜い、瀧壺に打ち込めば夫れでことは濟む、五臓圓の身内の衆此通りだからはあ相談は細かねへ、それ勇吉を胴上げにしろ、と云ふと勇吉は才助の後に隱れて　勇『何卒貴方宜いやうにお扱ひを願ひます』と云て泣きながら救ひを呼ぶ、此時才助は少しく聲荒らげ　才『仲人は時の氏神とも云ふ私が一度お扱ひ申して手を引かぬ以上は、お前方を御勝手になさると云ふことは筋違いでござろう、理屈は申さねば私が手を引たとも何とも云はないのに、貴方等が突然此方を神輿に打込んで了ふと云ふのは、甚だ早まつた事と思いまする、暫時猶豫をして下さい、貴方等のお顔の立つやうに致しますから』と云て一同の者を押鎮め、さて勇吉を手招きして岸端に誘ひました



東京電報

●議會の開院式 二十六日貴衆兩院に對し二十七日議會開院式を命ずとの詔勅を下さる

●開院式に行幸 二十七日帝國議會開院式に付き陛下には貴族院に行幸あらせらるゝ旨仰出されたり

●鐵道會議開會 本年の鐵道會議は二十七日より鐵道院會議室に於て開會し重要議案は明年度より着手すべき新線路豫算年度割にして平井副總裁議長たるべし

●諸星往來頻繁 諸星の往來頻りにして政局に關するものと見るべく內田外相は非常の多忙を極め居れり

●孫逸仙の歸着 孫逸仙は二十五日上海に到着し多數の革命黨員に迎へられ上陸せり

●岐阜縣選擧 岐阜縣に於ける代議士補缺選擧は政友會の敗に歸し高橋德信氏當選す

●鮮米廢稅有望 橋本大藏次官の談によれば明年度豫算にて朝鮮米移出稅廢止計上せられあるは事實なりと

北京特電

●革軍戰鬪準備 革命軍は滿州軍に比し劣れりとは云へず殊に武昌の革命軍は休戰中に係らず勢力を增加し戰鬪準備を爲し居れり

●居留地中立說 上海 發露軍當局者曰く今回の和議にして萬一不調に終るに於ては漢陽及漢口の各國居留地に支那街を中立地帶とすべしとの說革命兩軍の間に行はれ各國領事も賛同の意を表し居れり

●國共濟會解散 揚士琦王兆銘の發起に係る國事共濟會は其効を奏せず解散の宣言を爲したり

上海電

●新政府建設 四川成都 成都の獨立を宣言したるが今回愈々新政府を建設せり

●派遣隊と革軍 在漢口の海軍兵と交代の爲め日本陸兵一箇旅團派遣の報伝はると共に革命黨中恐慌を起せるものあり干涉を爲すべき第一步なりと思ひ[illegible]

●廣東の暴民跋扈 廣東 廣東の獨立宣布以來革命軍と稱する二百餘名の團體あり人民を殺害し強盜[illegible]

雜報

●鮮銀第二回拂込 朝鮮銀行は正貨準備及營業資金增加補充の爲め[illegible]四十五年二月中株主臨時總會を開き第二回株金拂込の件を附議すべしと云ふ

●國稅徵收令實施 曩に公布されたる國稅徵收令は來年一月一日より實施[illegible]定し之れに關係し[illegible]る筈なるが從來は內地人及外國人に對する國稅徵收に付[illegible]り警へば鑛業稅の[illegible]にて徵收すること[illegible]該法の實施と共に[illegible]しと云ふ

●商銀と共同倉庫 兼て[illegible]朝鮮商業銀行と共同倉庫との合同問題は其後漸々進捗し商業銀行[illegible]會にて既に合同の[illegible]側に於ても廿五日[illegible]決議を終たるが故[illegible]中に具體的の成案[illegible]發表の筈なりと云ふ

●歲末金融と商況 京城商業會議所調 [illegible]金融界は繁忙を呈し各銀行[illegible]は亦々幾分の金利[illegible]中個人貸金業者は[illegible]るものありて頗る[illegible]一面輸移入に於ては[illegible]十萬圓の增加を示[illegible]同期に比すれば約[illegible]に過ぎず隨て買出[illegible]爲め金融益々緊縮[illegible]二十八九日頃に到らば一層の逼迫を告ぐるならん▲各商店 [illegible]十八日頃迄は平時の狀態にありしも漸く此三四日前より多少[illegible]常に多忙を極めつゝあり[illegible]を以てせば昨年の同期に比し稍好況を呈し居れり然れど[illegible]び各店の賣上高は[illegible]り和洋雜貨商は夏[illegible]るを以て各御商店[illegible]に既に品切となる[illegible]を以て年末賣行を[illegible]となしたる向少なか[illegible]の荷捌き意の如くな[illegible]正月迄に尚ほ二ヶ月[illegible]居るもの、如し從來[illegible]主義は同業者の增加[illegible]又需要者側にても漸次堅實に傾きしを以て貨物の賣捌商は昨年に比し約三割五分を增加せるに反し賣上額價は僅かに八分弱の增加に過ぎざるは畢竟奢侈品及上等品の賣行を減じ且つ物價の下落したるに基因するの結果なりと云ふべし今各品に付概況を示せば左の如し

▲玄米は出廻捗々しからず前年の同期に比し約三分の二の出廻り減少せる爲め勢ひ相場はヂリ〳〵上り前月に比し上品七十五錢中品一圓十七錢下品一圓七錢各の騰貴せり▲木材類は前月より二割五分方の賣行減少昨年の同期に比し一割五分の賣行增加を見たり▲日本酒類は益々移入增加し昨年に比し約四割方の增加を示し昨年同期に比し約二割五分賣行增加せり▲建築に於ても二十八ヶ所の建築をなし此金額七萬五千圓▲呉服類の賣行は昨年より稍好況を呈せるも安價にして空利なるもの賣行好く比較的高價なるものは年々賣行減少の傾向を示せり▲日用雜貨類は人口增加と共に年々賣行增加しつゝあり昨年の同期に比し約四割九分の增加を示せるも同業者增加せる爲め其の利益に於ては昨年より稍減少せる傾向を示せり▲歲末贈答用品は昨年より稍賣行好況を呈せるも例に依り其筋に於て贈答禁止の內達ありたる爲め御用商人及一般の同業者の手控の爲め捗々しき賣行を見ざるも前年の同期より目下の狀況を推せば約二割方の賣行增加を示すならん

●各地の籾相場 本月十五日現在總督府調査に係る各地に於ける籾相場一石に付平均五圓五十一錢なるが之れを前月の同期に比較せば石平均二十六錢の高價を示したるが右は穀價の高騰を見越して手放さゞるによるもの、如し今試に各地の相場を記せば左の如し

京城	六、六三	仁川	五、一〇
公州	五、三六	全州	五、一三
群山	六、一三	光州	五、五〇
木浦	五、六三	大邱	五、五三
晉州	七、〇三	釜山	六、七一
馬山	七、五〇	春川	四、一三
海州	四、八〇	平壤	五、五〇
鎭南浦	六、〇〇		

以上の如くなるが各地を通じて上中下の平均相場を見んに上六圓中五圓五十錢下五圓四錢なり

●鰕漁會社計畫 平安南北兩道に於ける漁場には鯡目太刀魚其他鰕等を產し內地人漁夫の通漁せるもの甚だ多きが就中漁場は淸川江口を最とし春期のみにても其漁獲高十五萬圓以上に達し其內鰕の漁收額半數以上にして從來平安南北兩道沿岸には支那人の密漁甚だしかりしも一昨年來之れが警戒嚴重となりし爲め彼等密漁者の跡を絕ちしかば今回岡十郞氏等五名は鴨綠江より淸川江に亘る五里の沿岸漁業權を獲得し十萬圓の資本金を以て平安漁業合資會社なるものを設立し本社を鎭南浦に置き漁民に漁業資金を貸付け乾蝦製造をなし又は之等漁獲魚を鑵詰となして遠く海外に輸出するの計畫にて明年解氷期と共に實行の筈なりと

●定例長官會議 二十六日午前十時より總督府會議室に於て定例長官會議を開き寺內總督、山縣政務總監、倉富、石塚、俵、宇佐美、菊池の各長官鈴木、岡本の長官代理出席し政務に關し協議し十二時散會したり

●證明事務年末休暇 京城府廳にては例年の通り一般事務は廿八日を以て用仕舞ひとなせども土地賣買典當等の證明事項に限り一般人民の經濟上の便益を圖ひ卅一日迄執務すべしといふ

●昌德宮午餐會 李王殿下には二十七日正午より植物園に於て午餐會を催され飯仟の挨拶として伺候せる寺內總督を初め總督府側よりは山縣政務總監、上田、松永兩中將小松局長山縣武官國分局長、兒玉局長、中山大佐、秀原秘書官、藤波通譯官及小宮次官、朴泳孝、尹德永、李完用、朴齊純、尹澤榮、李載武と共に會食あるべしと

●夕刊交換會加入者 京城新年名刺交換會加入者は二十六日迄に約一千名の申込あり尚續々增加の模樣なるが昨年は八百二十三名なりといふ

●南滿出稼者の歸還 南滿洲地方に出稼せる內地人の勞働者は動亂の打擊と結氷期に際せることゝて昨今陸續として朝鮮又は內地に歸るもの多くして京義線列車は日々滿員の狀態なりと

●屠場稅問題に就て

……古城京城民長談……

民團に於て警務總監部の屠牛場を引繼ぎ經營することは去る九日の民會に於て可決せしものにて總監部との間には既に下交涉調ひ居るも其の屠牛場建物が官有物なる爲め讓受け等の手續終了せず從つて府及び道廳にも之れが許可を申請をなすの運びには至り居らず總監部が民團をして其屠牛場を讓渡し經營せしめんとの精神の由つて來る處は幾分にても民團の收入をして多からしめ且つは從來の如く屠牛上に於て日鮮人間に横はる不公平を除かんとの意に外ならぬので即ち從來は官營屠牛場に於ては屠牛一頭に就き朝鮮人は手數料一圓の外府より屠牛稅一圓金光社へ廿五錢合計二圓廿五錢の諸掛ありしに對し日人は其の私設屠牛場に對し一頭に付き使用料一圓以內の費用の外稅としては民團より一圓の屠牛稅を課せしのみなるを民團經營後は其の屠牛場に於ては日本人は手數料一圓五十錢以內屠場税一圓計二圓五十錢を徵收し又た私營屠牛場に對しては屠場主より搾税五十錢屠牛依賴者よりは一圓の税を徵收することゝしたのである然るに昨今日人屠牛業者にして民團經營後は其の營業立ち行かず杯唱へ朝鮮人に名義を變更せん等企つるものある趣きなれど民團に於ては何れの場合に於ても朝鮮人側より税を徵收するを得ざれど朝鮮人名義とすれば府廳より屠牛一頭に就き依然租税を徵收せらるゝものなれば其の結果に於ては同一のことゝなるものにして民團經營後は府に於ても除外令として塲税なる一税目を設け以て平均を保つことゝ信ず

取引所設立贊否意見（八）

▲淺野三井出張所長 曰く曾つて本紙に於て之れを發表したるが如く京城取引所設立問題に關しては其の米穀たり株式たるに拘らず共に尙早なるを信じたのであるが其後今日に至るも株式に至りては尙ほ未だ前說を變ずる迄には至らぬ蓋し取引所を必要とするほどの株券が京城に存せないからである併し米穀に對しては其後少しく其の狀態の變じたに從つて我輩の意見も亦變らざるを得ない即ち從來朝鮮米の相場は母國の相場に依つて左右されつゝあつたのであるが本年よりは首都に於ける朝鮮人並に各鐵道沿線に於ける鮮人等の大部が米を以て常食とするに至りたると內地移住者の增加に連れ朝鮮內地に於ける米穀の需要額激增したると南滿各地に於ける日本人の食料としての米穀亦其の供給を朝鮮米に仰ぎ尙ほ在浦鹽斯德の支那人等は其の常食原料の主要部分たる米穀が同地に於ける精米稅高き爲め朝鮮籾米の供給を仰ぐこと多く其の南鮮地方よりの輸出額は頗る多額なるに至りたる爲め今や朝鮮米の相場は母國の相場のみに依つて左右さるゝこと極めて少きに至つた殊に大豆の如きは今や其の市場範圍擴大され遠く歐米市場の影響を受くるに至つた即ち其の主要原因は滿洲大豆不作の不作多きにも因るが其他米棉花、印度亞麻種と云ふが如きもの、不作に依つても其の相場に影響を受くること多なるに至つて居る之れに依つて觀れば現在朝鮮第一の米穀需要地たる京城に於て米穀取引所を設立するは實に其の時期に達したものと稱して決して差支はない蓋し朝鮮米穀の取引相場を京城に於て公定し內地及び諸外國の各需用地に對して先物の値段を公表すると共に朝鮮米に依つて生活する朝鮮人が公定相場のある在るに依つて急劇なる値段の變動を受くるの懸念を抱く要なからしむるに見ても其の必要なるを知り得るであらう最後に取引所問題の如き利害共に多かるべきは其の性質上免るべからざる所であるから其の利にして實に優るものあらんか即ち之れを以て直に其の設立時機の到來したものと稱て可なりで取引所其のもの、必要不必要等は更めて論ずるの要なく只時機の問題であるが其時機既に到るとすれば毫も之れが設立を否認する要はないと思ふ

▲和田常一氏 曰く京城取引所設立に關して諸氏の意見を觀ると其の尙早を唱ふる人々も尠からぬやうであるが取引所其物を必要なしといふならば兎に角時機の早いと云ふ議論には賛成が出來ぬ即ち取引所其物の弊害あるかの如くに思惟せらるゝは多くは之れ仲買人等の罪にして取引所自身の罪ではなく又た現在の如く朝鮮農民が一二精米會社のみを目的として米穀を賣るに至つては朝鮮農業開發の障害となるので是非公定相場が必要である尙ほ株券の如き工事請負者其他の身元保證となり得る點より見るも現在以上京城に存在せざるを得ない事情あるに拘はらず其の在株の少きは一に取引所の設立なきに歸して居る殊に現在仁川に既に一ヶ所の取引所許可され京城が仁川に比し遙に米穀の消費地たる以上京城取引所設立は目下の急務である。

●京城輸出入品 京城に於ける本年の輸移出入總額は輸移入超過約八百六十萬圓にして之れを昨年の輸移入超過六百十四萬圓に比すれば二百五十萬圓の增加なりといふ

●東拓移民配置 既報東拓會社第二回移民の申込は千六百四十九戶にて內會社の承認を與へ通知書を發したるもの六百四十三戶あり尤も右の內五十戶は未だ何等の回答に接せざるが近日中には何れとか決定すべく而して移住個所は馬山管內を首位とし大邱、江景、水原、釜山浦之れに次ぎ其の他一般各出張所に配布する由

●黃海道の年末金融 黃海道に於ける年末金融を聞くに逼迫甚だしく開店せる商賈勢なからず或は部分に於てのみ殷賑支店に依り僅かに命脈を繫ぎをる有樣なるが逼迫の原因には種々あり其重なる二三を記せば鮮人間に多く奢侈の風を生じたると共に東拓會社其他內地人の地所買收に連れて地價の騰貴を見るや投機心を起し不馴の事に手を出し失敗せしものあり又今春來米價其他の物價騰貴は一般鮮人の生活狀態に變態を來たし加ふるに商取引の手控へ放資金の回收濟鮮貿易の著しき減少等に依り斯く年末に際し甚しき困厄を見るに至りしものなりと

●繁榮會の景品券發行高 京城繁榮會に於ける昨廿六日迄の景品券發行總高は約三十五萬枚以上に上り景品券は賣上高一圓につき一枚の規定なれば即ち三十五萬圓以上の賣行を示しをると

●日本電通支局紀念號 日本電報通信社京城支局創設六週年の紀念號が出た先づ表紙の氣の利いたのが著しく目を惹く寺內總督の威風凛々たる英姿に配するに南天の實を啄ばまんとする平和の象徵たる白鳩……何か深い意味が含まれて居る如に想はれる內容も亦頗る豊富であるが決して間に合せものゝ潮ッペラなものでは無い朝鮮移民私議民團存廢問題韓民政策の異論等看逃がす可らざる文字である怒牛山人の熱眼睥睨錄面白い圓山太谷師の嚴冬褌話肅然襟を正さしむる明石將軍三面觀面目躍如たり軟かい方面では花柳界革命の成功當世藝妓論飲助座右の銘とりく面白い就中當世色男鈴木稼君は精錬の筆致で縱橫に描き出れたる稼君の京城に於ける情史とも見るべく官人生活の陰影をも併せ窺ふに足る道がの稅君ギャフンと參らざるを得まい其他京城花柳界同謠曲界等趣味津々たるものがある殊に京城艶福連名帳と團碁番附とは斯界の士の珍とするところならん（一部定價二十五錢日韓書房文林堂にて發賣す）

●岡村理學博士の入京 水產講習所教授理學博士岡村金太郎氏は廿五日入京浦尾に投宿す

●太田主計の出發 陸軍運輸部釜山支部附を命ぜられたる太田主計は二十五日夜行赴任せり

●蠶業傳習所卒業式 獨立門外漢城蠶業傳習所にては二十六日午後一時より第一回の卒業式を擧行したるが卒業生は男女合計二十八名なり

●東拓の移民取扱所 東拓會社にては移民取扱の爲め來一月二十日より三月十五日迄下の關、釜山の兩所に取扱所を設け同時に門司、馬山、木浦の三個所に案內所を設くべしといふ

●京畿道廳の忘年會 京畿道廳にては二十八日午後六時より掬翠に於て廳員一同忘年會を開く筈にて府廳員も合同する由

●日本大學の校友會 二十五日午後五時より既報の如く掬翠樓に於て明治屋支店長三上林太郎氏の送別を兼同校友の忘年會を開催せしに會するもの二十余名岩本英夫氏送別の辭を述べ三上氏の挨拶あり各々十二分の歡を盡し午後十一時散會す

公人私人

▲岩城信太郎（鎭南浦總督府技師）廿五日不二屋
▲中尾國太郎（大阪每日新聞記者）同浦尾
▲森悟一（農工銀行鎭南浦支店支配人）同出發平壤へ
▲西川麻五郎（釜山稅關鑑定官）同釜山
▲竹崎末雄（陸軍中尉）同仁川
▲水谷千萬吉（海軍中佐）同平壤

▲京城手形交換高▼

	金高	枚數
十二月廿六日	四一五、七三六、五九〇	一四五

▲治外法權▼

帝國議會も愈召集されて、衆議院の議長には大岡育造が撰擧された、コレで一ト先つ休會で、新年早々本議事に取掛るであらう▲サテ本期議會の最大問題は例に因つて例の如く豫算案であらうが、之れは大藏當局が豫算削減の先廻りをしたから、萬事苦情なしに通過することであらう▲對淸外交問題、之れは必ず一ト花咲かせるであらうが、之れとて現政府が、國民の輿論に聽いて行動をする以上、大した事にはなるまいと思ふ▲斯く觀じ來れば議會は全然問題なしの樣だが、借ッウ行かぬと云ふのは、朝鮮關係の問題が、大分提出されるに違いないからだ▲前內閣の時の其儘なる今の總督府の遣口をば、現內閣が全然是認して居るかドウかは記者の知らぬところだ、併し兎に角朝鮮各種の問題に付て議會へ質問や建議案が出たなら現內閣はイタシ、カイシで嘸困まることであらう▲昨本紙掲載高橋辯護士談中の元田拓殖總裁の談話に曰く、現今にては寺內伯も既に一ヶ年以上の政治的經驗に因り、稍軍人的氣質を脫し來り、拓殖局に向け何事も圓滿に協議を遂ぐる樣になつたとあるが、モシ本當なら嘉すべき事だ▲例の鮮銀は曾て本紙が言つた通り、外に明案もないらしく、來年二月を以て株金第三回の拂込をサセル事にしたソウだが、創立後間もなき同行にして第一第二第三回とノベツに拂込をさせるのは、銀行界に前例のない事で、總裁たる市原は之に因り、記錄破りの名譽を博する譯だ▲曾つて第一銀行時代には、同行の兌換券は奉天邊まで通用したものだソウだが今は然らず堂々たる鮮銀券の第一券に及ばぬのは一體ナンの譯か▲手廻しの良い官人等は誰かゞ歸つて來ぬ中にと、大急ぎで忘年會をして仕舞つた、而して其忘年會は昨年のソレと違ひ、何れも藝者入の振つた宴會であつた。

●田中守平を排す

前々號及前號に記したる所に依りて讀者は東亞靈理學會々長田中守平の態度が傲岸にして所爲應答の曖昧なるは知られたるべし。彼は本紙前々號の『田中守平は醫師か』なる記事を見るや遽に狼狽し元朝鮮通信社理事

平岩内藏次郎氏を介して記事の中止を申込みたるも記者の筆を此に染めたるは深き信念ありての事なれば斷然之に應ずるを得ずと答へたり、下は即同氏と記者との對話なり讀了せらるれば記者が『田中守平を排す』理由を知了するに難からざるべし

廿五日午前十時

平岩氏は給仕に導かれて編輯局に記者を訪ふ　平『本日は御無理のお願がありまして』記『ハア無理な事は伺つても駄目でしよう、、』平『イヤ……實は其田中守平の事ですが、彼が京城に參りました眞意はアンナ御祈禱師の如な眞似をする爲ではないので……私(同氏)は彼とは七八年來の友人ですが彼は寧ろ政治の方に本領があります。來城すると同時に知名の方や學者や新聞記者をお招きして其發見に係る靈理の說明を聽いて頂く心算だつたのですが來る匆々遂にアンナ事に成つて終つたのです、兎に角一度彼の所說を聽いて遣つて下さい滿更理窟の無い譯でもありません中には大に傾聽に値する事もあるのです、鄙余の如きも自分の方で定た次第では無く患者の方からア、定て終つたのだ相です尤も少々法螺的の廣告は致した如ですが、何分右樣の次第ですから御懇意づくから一つ何とかれ手加減をれ願ひしたいので』聽き終つた記者は下の如く答へた『お話は判明ました、私(記者)は田中守平なる人の經歷も本領も知らうと思はぬ、立派な經歷や本領を持つて居ても泥棒する人もあり姦通する人もあるのだから、私は田中守平が靈理を研究し此を口にし主義にし主張にし堂々宣傳流布に從事するのは決して惡事と認めないのみならず就て其說を伺ひたい希望を持つて居るからして過日來記者を特派して田中氏の門を叩かしめたること五回に及んだが何時も患者雜沓の故を以て話半に立歸つた始末だ、特派記者の復命の要領を得ざるに依つて私は下の如く田中守平を解剖した、靈理を說く者が靈理を不說して醫師か看護婦かの如に患者診療に重きを置くのは要するに靈理なるものを看板に其發見に係る靈子とか云ふものをクレオソートやモルヒチやアンチピリンとして肺病患者や神經痛や罪熱や其他一切の疾患に有効なりと稱して病者の財嚢に其口を糊し其懷中を肥さんとする彼の濱口熊嶽の徒なるべしと、斯う思つた、聞いて試れば彼の定初回二圓次回よりは一圓宛の治療費を徵收して居ると云ふではないか、私は此所業を惡い事と信じたのだ、靈理や靈子說や其說を主張する田中守平は排する必要は無いが田中守平の爲しつゝある萬病治療の御祈禱は斷じて排する必要を感じたのだからお手柔にの御賴に應ずる事は出來ません』と以上は平岩氏對記者の談話の概要なり、平岩氏も之を諒として辭去せられたり、此交涉を受たる記者は一層其信念を堅ふせしに依り深く靈子作用なるものを排斥する

●仁川校の御親影奉置

▽嚴肅を極めたる式次　仁川高等小學校にては曩て其筋に御親影及教育勅語の下付申請中なりし處愈御認可せられ二十六日京畿道廳に於て授與式を行ひ岩●仁川民長及同校長鈴木志津衛氏奉戴し同日午後一時四十分仁川驛に到着し同校生徒李部奉迎し直ちに校内に安置し奉れり

●鬼木の死體解剖

▽有力なる嫌疑者逮捕　二十六日の紙上に北米倉町の人殺しと題し報道せし鬼木彦四郎(三〇)が二十五日午前八時頃相生町京城基督教會堂横路に行倒れ居たるを發見檢證の結果何者にか殺害されしものなること判明せしは既報の如くなるが該事件は直ちに豫審に付せられたれば事件の眞想は遺憾ながら發表する能はざれば詳文なき閣に於て報道せんに被害者鬼木を高利貸とせしは誤聞にして彼れは未だ獨身にして雜貨行商專問にて綿密に諸帳簿等も整理し近隣に於て前途有望の模範的商人なりと評せられ居たるも多少客な點ありて友人に嫌はれる事もありきと然るに彼れ鬼木の死體檢證後高木豫審判事兩角檢事今村南部署長安藤警視等は二十五日午後四時過ぎ迄密議の末り死體を總督府醫院に運び前記係官一同は古城警察醫を從へ總督府醫院に出張し死體解剖に附したる結果後頭部に致命傷を發見し南部警察署に引上げ午後九時過ぎ迄犯人搜查手段に付密議の上各刑事十數名に搜查を指揮し午後十時半頃迄に八人の嫌疑者を逮捕し南部署に假豫審を開き二十六日午後一時過ぎ迄取調べありて有力なる犯人として岸伊三郎、熊谷福太郎、中西浩の三名を留置し兩角檢事は二十六日午後一時より南部署に出張し總監部よりは安藤警視鈴木警部詰切り居る抔警察の活動目覺しければ遠からずして犯人判明す可し

●殺人犯人の自白

別項鬼木彦四郎を殺害したる犯人は福岡縣人當時鐘路朝鮮商業株式會社員熊谷福太郎と判明したり其自白に依れば原因は戀路の行違ひより也と詳細次號

●大仕掛な夜這ひ

▽板塀を乘踰ゆ　仁川松坂町木村組雇人山口縣生れ大田長吉(二五)は花房町湯淺組の女中おしづが同縣人なりと云ふを聞き慕はしさの餘り無想し二十五日夜舘に乘じて同家の板塀を乘越おしづの寢間に這込まんとせる折柄消防夫に怪まれ取押へられ仁川署に連來り取調べたる處前記の次第と判明し說諭放還

●井出三郎氏の拘引

▽仁川客舍に於て　京城民團民會議員井出三郎氏は二十五日夜豫審判事の令狀を以て仁川に旅行中を其筋に拘引せられたり事件の內容は頗る複雜せるものあり委細後報

●木を盜て訓戒　龍山西湖面西湖新井里四十統一戶朴鎭元(二四)同新井里四十五統四戶田錫濟(二六)は二十四日龍山鐵道構內の材木を竊取して運搬中同日午後十一時三十分龍山署の香村巡査が巡回中孔德里大院君丘陵の附近に於て見付けたるにより直ちに龍山署に拘引せられたるも元來は順良なるものにして改悛の見込あるものなりとして此程同署に於て訓戒放免せられたり

●仁川の落し物　仁川本町三丁目六番地佐藤武は二十五日午前七時より約三十分間の間に自宅前道路にて十圓紙幣四枚印鑑一個革財布入のまゝ紛失▲仁川山手町二丁目森常吉は同日午前九時自宅より十八銀行支店迄の間に於て金割ピン一個代金四圓を紛失し屆出づ

●清水席の新娘　神戶市多門通り四丁目生れ井邊コツル(十七)は京城券番清水席より鶴羽と名乘り今晩はと現れしが此の妓は兵庫の三河家にて朝日と名乘つて左褄取つて居た妓にて愛嬌者タツプリ何分御贔負にとは當人の申し分也

●執行猶豫の恩典　明治町一丁目九十三番戶馬場質店雇人佐賀縣平民重松伊次(十六)が主家が質物たる金指輪十數個を竊取したる事件は京城區裁判所に於て懲役二月に處せられ二ヶ年間執行猶豫の恩典を與へらる

●馬の脚にお灸　京城御成座俳優神谷川縣人鈴木留藏(二三)が小包郵便に封書數通を密封し郵局に發見せれ告發されたる事件は京城區裁判所に於て罰金三圓に處せらる

●漢江の結氷　頃日來の強氣にて漢江は未だ全部の結氷までには至らざるも龍山麻浦沿岸にて水勢緩漫の處は殆んど結氷し二十五日には對岸に徒涉したるものありと

●金錢を強制す　旭町一丁目居住島根縣人無職梅谷留一(三五)は二十三日午後十一時頃京城本町七丁目石村雜貨商店に至り金錢を強制し南部署に於て拘留五日に即決

●尻を五十づゝ　南部大龍洞住金順相(二〇)西部庭洞住申平汝(三)西部阿峴住李成龍(十八)の三名は賭博の現場を南部署に檢擧され各笞五十に處せらる

花柳界だより

▲御贔屓樓の新子は金持の奥さんに成りたい〜と口僻の如に申して居るが理由はと聞けば『合財袋を提げて困つて居る人の家を訪問する事が出來ます』と▲蔦家の春江は總督府の判任官丸野さんやらに岡惚つて終ひ此次逢つたら差上げようと一ト月がゝりで絹糸でネクタイを編み上げた時も時夫とは知らぬ丸野さん休暇を取つて日本へ歸つたのでモウ此限り逢へぬものかなんぞの如に嘆き込んで居るとか『乙女心の無理もあるまい』誰だい失笑てるのは▲同家の吉瑞は病氣にて內地へ轉地療養に出掛けて居ましたが先日歸京相變らず勇氣ボツ〜大賣り出しを開始せり▲玉家の靜江は此寒さも厭はず毎早朝永樂町の方へ急ぎ申す故ソツと跡を跟けしに金光樣へ日參と知れて見ると、何のコツタイ▲大連の玉突屋にて女給仕をして居た元玉家のお次は彼の事以來居るに居られず北米倉町の花の家へ仕替へたり靜江をお茶子上りと貶した主が女給仕上りとは面白い、恥を知れ、恥を▲井門本店の富美子は大韓醫院へ入院しました、病名ですか『野暮だワね』▲例の清水席の政彌も入院に及びたり、但し淨土宗開教院にあらず安東病院に御座候、病名は『例のですよウ』▲花月の福龍他人の顏さへ見ると其上つて曰く『夜半門の戶ドン〜は決して怖くありません、エーエ、怖くありませんとも』▲同家の光榮は智惠子をダシに使つて吉野君と炬燵に潛り込んでイチャ〜と、好い加減にしないさ奥さんがお可哀想だよ、ナニツ『稼業であれば餘儀もない』と生意氣な事を言ふな(ねずみ)

平民文庫

▲浦尾旅館に本月十日頃から宿つて居たものですが毎夜三時四時頃から隣室で男女の話聲五月蠅て寢られない女の名はおさみとか云ひ男の名は判らぬ何とか醫師だとの事だ、浦尾は几帳面だと聞いて居たが(困却生)▲腰辨生博士の兩君よモ少し事實を明瞭に書いて投書したら如何餘りに壁訴訟過る(係)▲昨紙小僧君の虎の沒收に對する嘲笑的批判は眞に血あり涙ある致を解したる言だ『法は法として存せよ而して料子定規なる勿れ』と天意だ(敬服生)▲御自分の智惠からして小僧を褒め下さる、思掛けない事で却つて恥かしい(小僧)▲江戶ツ兒會は廿七日午後五時より花月樓に於て開催されます(係)

▲岐阜縣で生れて鳥取縣で育つた江戶ツ兒も出掛けるだらうか花月が儲ける譯か(小僧)▲『白魚も漢江のと來ては食へたものでない一般に賞玩せられるのは何う云ふ理由ですか博識なる小僧先生の教示を願ふ(芭蕉)▲『白魚にあたひあることを惜みなれ』と遊ばした翁の名を借用された方だけに面白い、答へて曰く京城は萬事目方で物を賣買する從つて重いものが良いと云ふ事になつて居ます其處で漢江の白魚は日本內地の夫よりは重うムんしよう夫れでゞすよ(小僧)

●贈物と京阪　今年も僅か五日足らずの日になりて何處の家でもお歲暮クリスマスた年玉の選擇に彼是と苦心する時になりたるが近年此の贈答の禮も盛になりたるため昔は單に品物を送り取りせし旅禮なりしも近來は品物の選擇に頗る意を用ひて贈物の異心を深く先方に通せしめんとするに至りたるは文明の進步せる證據なるが就中品質の優秀を以て上中流社會に異常の好評を博せるクラブあらいこ、クラブたしろい、クラブはみがき其他各種クラブ化粧品は頗る理想に適せる品々なるを以て心ある上中流の婦人女學生間の贈答品に用ひられ居るのみならず紳士方より婦人方へ對する贈物としてはクラブ化粧品に及ぶものなく贈る人の品位も保られて贈らるゝ人には喜ばるゝ品なれば只珍らしとのみにて日々に用なき品物を贈るよりも近來京阪の中流社會にクラブの如き良き化粧品を撰ぶ傾甚だ盛んなりといふ（廣告）

婦人日常心得

某大家談

▲昔は昔今は今

「飾らざる美こそ最も飾れるものなれ」と或る詩人は歌つた。併し是れはクラブ洗粉で洗ひ潤め、クラブ美身クリームを擦りこみ、クラブ白粉で薄化粧を施し、髮にはクラブ美髮用ポマード、齒にはクラブ齒磨を朝夕怠らず使つて居る二十世紀の新美人の如何に美しく、如何に清く、如何に氣高きかを知らなかつた時代の詩人の頭腦から生れた句であるといふ事を爰に斷つて置かねばならぬ。此の詩人が若し今日生きて居たならば、必ず此の句を撤回する必要を認めたに相違ない。

▲自然美の眞義

云ふ迄もなく自然美に優る美はないが、併し此の自然美といふのは、垢は溜るに任せ、齒は黄ばむに任せて顧みぬといふやうな放漫な風姿を謂ふ譯では決してない、是れは自然美ではなくて、自然美の雜蕪である。如何に脊腴た土地でも雜草の茂るに任せて放擲つて置いたならば、何時までも荒蕪地として三文の價値も出ない、之を價値のある土地にするには、鍬鋤を入れて開墾し、種を蒔き、肥料も施さねばならぬ。同じく、人も天から禀けて居る自然美を遺憾なく發揮するには、夫れ相當の手段を盡さねばならぬ、そこで化粧の必要が起つて來る。

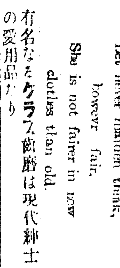
▲天禀よりも嗜

如何に醜く生れついた男女でも夫れ相應の自然美は必ず持つて居るものであるから、肌なり髮なり齒なりに對する其の人の嗜み一つでよし人を驚かす程の美は得られないまでも、少くとも人に快い感じを與へるだけの美は必ず得らるるものである。此の自然美を發揮する最も有效な手段として世の識者の殊に同音に推奬する所は、肌にクラブ洗粉、顏にクラブ美身クリーム及びクラブ白粉、髮にクラブ美髮用ポマード、齒にクラブ齒磨の常用である、朝夕怠らず此等の手段を執り、そして日常快活な精神を持する婦人で、尚は且つ人に不快の感を與へるといふやうな絶望的に醜い婦人は曾て見たことがない。

▲誤れる道學者

美しくなりたい少くとも人の目に快くありたいといふのは一切の婦人の衷心希望する所で、そして『己れを愛する者の爲めに容づくる』は即ち婦人の天然の約束である。之をしも瘋癲なりとして斥くるが如きは、頑固な主義に囚はれた似而非道學者の謬見で、人間の本能を無視した極めて不親切な小言を謂はねばならぬ。テニソンも歌つたではないか。

Let never maiden think,
however fair,
She is not fairer in new
clothes than old.



有名なるクラブ齒磨は現代紳士の愛用品なり

下田女史婦人禮法　椅子にかけたる處に同輩來れば立ちて同輩の禮をなす

▲理想的化粧品

併し茲に一つ警戒して置きたいのは、化粧身嗜みに注意するはいゝが、之に用ふる化粧品は餘程愼重に撰擇しなければならぬといふ事である、近頃坊間に行はれて居る化粧品の中には隨分いかゞはしい物が多いやうであるが、斯る不良の化粧品の使用は、自然美を發揮するどいふ化粧の眞議に背くのみならず、長く之を使つて居る内には却つて自然の美質を損し、遂には取返しのつかぬやうな馬鹿な目を見てしまふ。そこで化粧品は日新の科學を應用して極めて精良なものを選んで用ひなければならぬが、此の點から謂ふと彼のクラブ化粧品の如きは實に理想的のものと稱して差支ない。

▲誤れる化粧法

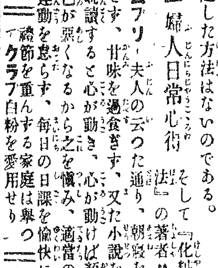
も一つ注意して置きたいのは化粧の方法である、元來化粧の目的は自然美を發揮するに在るので彼の舞臺に立つ俳優の化粧法の如きは眞正の意義に於て化粧法と謂ふことは出來ない、男が女に扮裝して或は同じ女でも自己といふものを沒却して或は特別な人物に扮裝しなければならぬといふ其の事が既に不自然であるから、俳優の所謂化粧は此の不自然を糊塗す爲めに執る極端な手段で一種の變相である。若し素人がある眞似をして白晝大道を歩くとすれば、美しいどころか夫れこそ化物で、見られた樣ではあるまいと思ふ。であるから、俳優の所謂化粧談といふものは、素人の爲めには些とも參考にはならないのである。

▲理想の美身術

そこで眞の化粧法と謂つても別にむつかしい事はない。先づ清潔な水（若くは微温湯）でクラブ洗粉を溶かして、指先で以て顏なり襟なり到らぬ隈なく之を擦りこみ、それから水を取替へて之を洗ひ落す。此の洗ひ落すにも同じく指先を用ひ決して粗い手拭などを使つてはならぬ、斯くて氣孔に溜つた不潔物を去り、其の迹へクラブ美身クリームを程よく指先で擦りこみ、輕く夫れを拭き取つて、クラブ化粧水を溶いたクラブ煉白粉を顏から襟にかけて塗りこみ、再び夫れを拭き取つてクラブ水白粉をつける、或はクラブ美身クリームを塗つた上へ淡くクラブ粉白粉を刷きかける、そして髮にはクラブ美髮用ポマードを付け、齒は朝夕クラブ齒磨で柔かに磨く、百年二百年後の婦人は何ういふ化粧品を用ひるやうになるか知らぬが、兎に角廿世紀の婦人の化粧法としては右に越した方法はないのである。

▲婦人日常心術

そして『化粧法』の著者ハムブリー夫人の云つた通り、朝寢をせず、甘味を過食ぎず、又た小說を耽讀すると心が動き、心が動けば顏色が惡くなるから之を愼み、適當の運動を怠らず、毎日の日課を愉快に果して行くやうにすれば、どんな婦人でも相當の美少くとも人の目に快い感じを與ることが出來るやうになる是が即ち婦人としての成功である



下田女史婦人禮法　上座入り來らば下座は椅子を離れて敬禮をなす